

脂性肌(オイリー肌)対策「油滴を皮脂に変える」

脂性肌は、毛穴から皮脂ではなく油滴が分泌されることが原因です。海の森化粧品は、従来の油滴を取ることで一時的にベタツキを抑えるケアとは違い、油滴を薄めることで皮脂が分泌されるようサポートします。時間はかかってもベタツキを繰り返さなくなるのが特徴です。

●脂性肌の原因

脂性肌の要因は、皮脂量が多いことよりも、毛穴から分泌される脂が油滴:油のかたまりであることです。皮脂はサラサラしますが、油滴はベタベタします。通常、毛穴からは皮脂が分泌されます。毛包内に定住するアクネ菌が出す脂肪分解酵素リパーゼによって、油滴が分解されることで皮脂が作られます。皮脂は、皮膚表面で汗となじむことで皮脂膜を形成し、皮脂膜はサラサラします。ところが脂性肌では、合成界面活性剤やアルコール配合の商品(洗顔剤・保湿化粧品など)の使用によって、毛包内のアクネ菌が減少し、油滴を皮脂に変えることができず、毛穴から油滴がそのまま分泌されるため、皮膚表面にべたつきを感じるようになります。

また、脂性肌状態で合成界面活性剤やアルコール配合の商品を使い続けると、角質バリアに必要なセラミドを流出させ、インナードライ(皮膚表面はべたつくが内側は乾燥する)や混合肌(Tゾーンはべたつきりゾーンは乾燥するなど部位によって現れる症状が異なる)を作り出す要因となります。

●従来の脂性肌対策「油滴を取って一時的にベタツキを抑える」

従来の脂性肌対策の主流は、洗顔料やアルコール配合の化粧品を用いて、ベタつき(油滴)を取ることでした。使用直後は、油滴が取れてベタつきがおさまりますが、同時に、配合の合成界面活性剤やアルコールがアクネ菌を取り過ぎてしまいます。そのため、継続使用は毛包内でのアクネ菌不足につながり、油滴を皮脂に変えることができず、ベタつきを繰り返すようになります。

●海の森化粧品「油滴を薄めて脂性肌を繰り返さない」

海の森化粧品は、油滴を取るのではなく、薄めることでベタつきにアプローチします。含有の脂肪分解酵素リパーゼ及びタイプ1のセラミドが、油滴を分解して(薄めて)まず今あるベタつきを軽減します。合成界面活性剤やアルコール不使用のため、アクネ菌を取り過ぎることなく油滴を薄めます。継続することで、徐々に毛包内にアクネ菌が定住するようになるため、やがて自分の力(アクネ菌の力)で油滴を皮脂に変えていくことができます。多少時間はかかりますが、毛穴から自然に皮脂が分泌されるようになるため、ベタつきを繰り返さなくなります。なお、海の森化粧品によって薄まった油滴は、基本的に水やぬるま湯で洗い落とせるため、洗顔剤の必要はなく、またアクネ菌の取り過ぎを防ぐことができます。あぶら取り紙の必要もなくなります。

※脂性肌の方には、より油滴を薄める働きのある「髭水」の使用をおすすめします。

●オイリー肌と食習慣

ファストフードやインスタント食品、お菓子、スイーツ、外食が中心の食生活は、油滴:油の量の増加に大きく関わっています。脂肪分の多い物や糖質をたくさん摂取しすぎると、油滴の量が増えてベタつきにつながります。